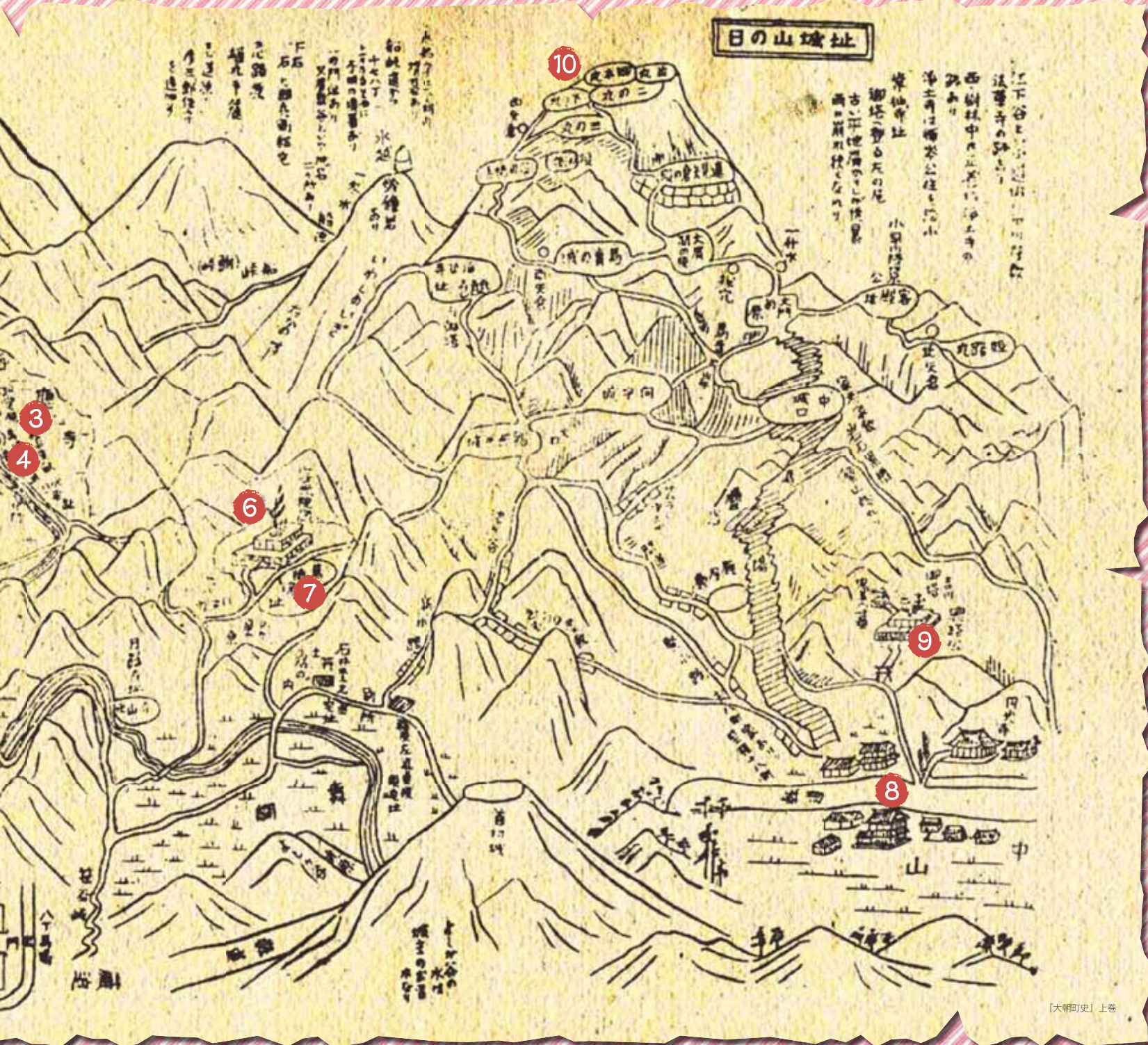


吉川氏ゆかりの地 日山城〜中山地域

北玄島の郷

を訪ねて



アクセスマップ



大朝へのアクセス

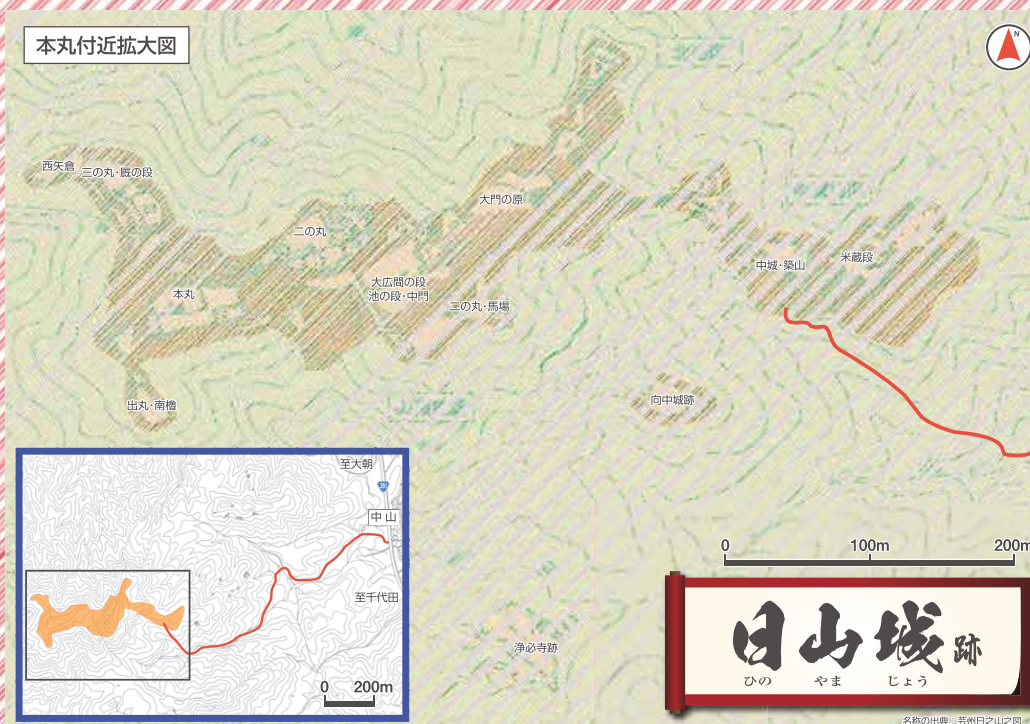
- 自家用車：広島市内から約1時間
北江から約2時間
福阿から約4時間
- 高速バス：広島バスセンターから
大朝JCTまで約1時間10分

お問い合わせ

(一般社団法人) 北広島町観光協会

広島県山県郡北広島町有田1122
(道の駅舞台ロードIC千代田管理棟内)
TEL:0826-72-6908
IP電話:050-5612-6908
E-mail:kankou@khir.jp

本丸付近拡大図



日山城跡

ひの やま じょう

名物の出典：吉州日之山之図

10 日山城跡

〔国史跡〕北広島町新庄・中山

天文十四(一五四五)年頃、吉川興経が新庄の小倉山から本拠を移した城で、天正十九(一五九二)年、豊臣秀吉の命により広家が出雲富田城(島根県安来市広瀬町)に移るまでの吉川氏の本拠城。

毛利元就の二男である元春が吉川家を相続し、天文十九(一五五〇)年に日山に入城、永禄十(一五六七)年頃大改修された。元春とその長男元長の死後、家督を継いだ三男広家によって天正十六(一五八八)年頃、再度改修されたものと思われる。

城は標高七〇五m、比高三〇〇〜四〇〇mの日山の山頂を中心とし、東西七〇〇m、南北三〇〇mの範囲に本丸・二の丸・三の丸・中城など計二十八の郭を配する大規模な山城である。これらの郭群は、配置から、城の中央部の「山頂地区」、北側の「北地区」、東側の「中城地区」に分けられる。「山頂地区」内、城の

最高所にある本丸は七〇〇mの広さで、城の中心的位置を占める。城主の居住施設や政務施設が「山頂地区」内にあつたものと思われる。

「北地区」は北方面の見張りの郭群。「中城地区」は登城路の防御機能を強固にするための郭群。



吉川氏は正和二(二三三)年、駿河国(静岡市清水区)から地頭職として大朝本荘に入部し、十五世紀前半頃石見吉川氏の系譜をひく経見が新荘に居を移し、小倉山城を築城しました。

十六世紀後半になり山県表(現北広島町千代田地域)をめぐる東隣の高田郡(現安芸高田市)を本拠とする毛利氏と対立するようになった吉川興経は、本拠を小倉山城から日山城へ移し城を整備しました。興経は親毛利方の家臣による反逆により当主の座を追われ、布川の地に隠退し天文十九(二五五〇)年九月、毛利家臣の襲撃を受け悲憤の最後をとげ、実子千法師もまた乳母とともに近くの椎村山でともに打たれ、ここに藤原姓吉川氏の正系は亡びました。

日山城は毛利元就の次男、元春が吉川氏を相続し天文十九(二五五〇)年、十九歳で日山城に入り元春・元長・広家三代、広家が出雲月山富田城に移るまでの

四十二年間、吉川氏の居城日山城と家臣の武家屋敷、庶民の市が中世この山間地に花開きました。

大朝豊平・千代田地域にまたがる日山城跡は日山の山頂を中心とし、東西七〇m、南北三〇〇mの範囲に本丸・二の丸・三の丸・中城などおよそ二十八の廓を配する大規模な山城です。城の最高所にある山頂地区には本丸があり、城主の居住施設や政務施設、北側に見張りの廓群、中央には登城路の防衛機能を強固にする廓群などがあつたと思われまます。

日山の城下は三方向に分かれており、東側の大手口には中山市や常仙寺が搦手側(日山城南麓)の舞網地区には万徳院や土居屋敷跡などがある。また、南西麓の吉川元春館跡の周辺には土居ヶ原屋敷跡などの家臣の屋敷や八町馬場跡が残り、元春館跡の東西には市や製鉄・鍛冶に係わる人々の集落があつたものと思われまます。

この地域に残る吉川氏の山城とともに、吉川氏墓所・館跡・屋敷跡など散策される皆様の一助になれば幸いです。

① きつかわもとはるぼしよ 吉川元春墓所 [国史跡] 北広島町海応寺

館跡西側背後の林中には、玉垣と屋根付き柵で囲われた元春・元長墓所がある。隣接する北側には土塁で区画された海応寺跡が残る。元春・元長の死後、当主となつた広家が天正十九(一五九二)年、出雲富田城に移封されると、元春の菩提寺として海応寺が建立され、館としてはわずか八年でその機能を終える。

この墓所は、文政十(一八二八)年と明治四十一(一九〇八)年の二度にわたり岩国吉川家が整備・改修しており、旧状は不明であるが、本来葬られたのは、元春は海応寺跡の北東下にある三・五m四方、高さ九〇cmの積石塚、また、元長は万徳院跡境内西側の墓域中最大の積石塚と推定される。玉垣の右外側に隣接する基壇は、早世した元春の四男松寿丸(禅岑法師)の墓と言われるが、定かでない。

毎年八月二十日、関係者参列のもと、墓前祭が執り行われている(一般の参列も可)。



② きつかわもとはるやかたあと 吉川元春館跡 [国史跡・庭園・国名勝] 北広島町海応寺

天正十一(一五八三)年、吉川元春が長男元長に家督を譲つた後に隠居所として建てた館。元春・元長の死後は三男広家夫妻の居所となる。天正十九(一五九二)年、広家は出雲富田城へ移封され、背後には元春菩提寺の海応寺が建立、機能を失つた館は寺領となり耕地化されていく。

館は日山城の南西麓に位置し、志路原川右岸の比高九mの河岸段丘上に築かれる。高さ三mの石垣がある東側を正面とし、規模は間口二〇m、奥行き八〇m。

発掘調査により、主殿、常御殿、湯殿、便所などの礎石建物跡九棟、台所、番所などの掘立柱建物跡六棟のほか、庭園、井戸、溝などの施設が見つかつている。また、多量の土器や国産・輸入陶磁器、曲物、漆器、下駄、櫛、呪符、形代、将棋駒、建築部材など、日常生活や信仰、遊び、建物構造が窺える多様な遺物が出土した。これらは万徳院跡や小倉山城跡の出土品とともに、隣接する戦国の歴史史館で展示公開中。



③ まつもとやしきあと 松本屋敷跡 [国史跡] 北広島町海応寺

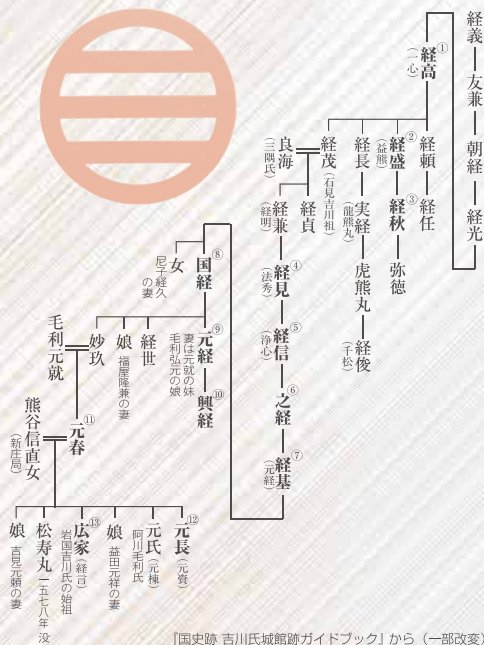
吉川元春館の北西二五〇mに築かれた館の跡。この一帯はかつて葦しか生えないので「吉野原」と呼ばれる吉川親類衆石氏の所領で、元春が日山城へ城直後に直轄地として収公する。この松本屋敷は元春館建設に先立って、体調の優れない元春夫人の仮住まいとして建てたとされる。館は間口八〇m、奥行き三〇mで、正面には万徳院、元春館同様の石垣が築かれ、中央に幅六mの門跡がある。

④ はっちょうばあと 八町馬場跡 北広島町海応寺

松本屋敷跡の南側、志路原川左岸に沿つた東西道路で、南面には当時の石垣が残る。この道と直交する南北の道路は八〇〜一〇〇m間隔で整然としており、当時、町割が計画的に行われた様子がうかがえる。周囲には長さ七六m、高さ一・五mの石垣に囲まれた土居ヶ原屋敷跡、松本屋敷跡のほか、今田屋敷・備前屋敷などの地名も残つており、館を中心に家臣が集まり、町が形作られていく様子が窺える。



吉川氏略系図



⑨ 常仙寺跡

北広島町中山

日山城東麓、登城口にある吉川興経の菩提寺跡。大内II毛利と尼子の西勢力の狭間で赤節を繰り返す興経に、吉川家の行く末を案じた叔父の経世らが毛利元就と謀り、興経は廢嫡され、天文十九(一五五〇)年、幽閉先の毛利領布川(現安佐北区上深川)で子の千法師とともに殺害される。伝説では興経の愛犬がその首をくわえ、新庄を目指すもこの地で絶命し、首が転げ落ちた地に首塚が築かれたた



め、犬墓が上方にあるという。この墓は千法師や首を持ち帰った忠臣の墓で、世をはばかって犬墓としたとの異説もある。

⑦ 万徳院跡

北広島町舞網

吉川元長が天正二(一五七四)年頃宗派を問わず万の神仏の加護により徳を得ようと、日山城南西麓の山中に建てた寺院(別邸)で、元長の死後、弟の広家が菩提寺として改修した。本堂・庫裏・霊屋などの礎石建物跡や、庭園・水道施設、法華経版木、裏目物差しなどが見つかった。慶長五(一六〇〇)年、吉川氏の岩国移封に伴い寺も岩国に移転した。復元した風呂屋では、毎月第三日曜日に入浴体験ができる。



⑤ 下石市跡

北広島町下石

日山城の南麓で、元春館からは南東一二km下流にあり、砂鉄製鉄や鍛冶が操業された上石の和浪原へ通じる主要街道に開けた市。日山城東麓の石州街道に開けた中山市とともに、一帯の経済生活を支えたと思われる。現在はわずかにその名残を示す「こんやばし」(紺屋II染め物屋)、「研屋」(「研屋小路」の地名が残るのみ)である。また、市頭の十字路には市胡の祠があり、江戸時代も市としての機能を果たした。



日山城周辺図



吉川興経首塚と犬塚

興経積石墓の発掘調査 (二〇一八年十一月から)

文政三年(一八二〇)、岩国藩は二名の藩士を吉川氏旧領の新庄・海心寺・中山等の現地に派遣し、古城跡・居館跡・古寺院跡・墓所等の絵図面の作成を命じた。兩名は仔細にわたる現地の見聞、調査を行い、同年六月絵図を調整し藩に提出した。いずれも内容は写実的かつ微細にわたり、極めて貴重な資料である。左下は中山宿から日山城跡全体を俯瞰した絵図「芸州日山之図」の一部(吉川史料館蔵)で、その麓に「御塔山」とあるのが常仙寺跡で、登城路から右手に折れ

た山中に二字の小堂が描かれている。さらに絵図の余白には「御塔御霊石之図」として、墓壇上に立つ「御霊石」と、その左上に「御犬塚」が描かれ、まさにこれが吉川興経積石墓と犬塚であることは明白であろう。しかし、墓が木造の「御上屋」の中にあり、さらには右側の興経墓は墓壇上に墓石が立っており、今日の姿とは様相を異にしている。



⑧ 中山市跡

北広島町中山

日山城東麓、登城口(大手筋)にある。元春が新庄市に代わるものとして日山城の東麓に新たにつくった市と考えられる。天正十五(一五七八)年には吉川氏の目代(代官)の存在が確認でき、交通や流通の拠点だった。吉川氏が日山に居城したころは二千戸を超え中山市として栄華を極めたと伝えられ、短冊状に町割り区画や防御を考慮した丁字路などが残っている。



⑥ 容光院墓所

北広島町舞網

万徳院跡西方の林中には十基の積石塚が点在する墓域があり、中でも中心的位置を占める方形墓壇上に築かれた一辺四・五mの積石塚には元長が葬られていると推定される。また、墓域の北端には、文政十(一八二〇)年、岩国吉川家が改葬した玉垣で囲まれた容光院(広家夫人)墓所がある。西方三〇mの改葬前の墓跡には、当地域では石塔を建てない吉川氏の墓としては、例のない宝篋印塔の基礎石二石が放置されている。

